

第6学年 外国語科学習指導案

授業日

指導者

1 単元名 海外にいる友達に手紙を書こう ～Let's write a letter!～

2 単元目標

- 英語の手紙の書き方、英語の手紙の書き出しや結び、動詞の現在形や過去形、助動詞を用いた未来形の文構造、前置詞や接続詞を用いた英文の書き方を大まかに理解することができる。
(知識・技能)
- 手紙の内容に合わせて、自分の行動や気持ち、場面の様子や時間を、文構造と関連づけながら前置詞や接続詞を用いて工夫して表現することができる。
(思考力・判断力・表現力)
- 伝えたい内容や思いを相手に伝わりやすい表現を用いて、外国語と日本語で表現しようとする。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 指導にあたって

(1) 教材観

本教材は、海外へ転校した友達に向けて手紙を書くことを題材にしている。2学期の修学旅行などの学校行事の報告、これから予定されている校外学習や卒業式に向けての思いなど、児童一人ひとりが伝えたい内容を自由に選択し、それぞれの思いを表現できる。学校行事に関する単語や英語の手紙の書き方を取り扱う中で、児童が考えた手紙の内容を伝えあったり、表現の工夫や選んだ単語を共有したりして、伝えたい内容にあった単語を自由に選ぶことができる。

そして、文を一から構成し、知っている単語や既習の文構造を用いながら自分で文を作り、手紙という作品を作ることができる。既習の言語を用いて自分で文を作ることで、児童が達成感を多く味わうことができる教材であると考え。ただし、発達段階を考慮して、外国語と日本語で表現することも可能とする。また、ICTを活用して単語を調べることは可能とするが、ICTの翻訳機能を使用して、日本語を全て外国語にしないことを条件とする。

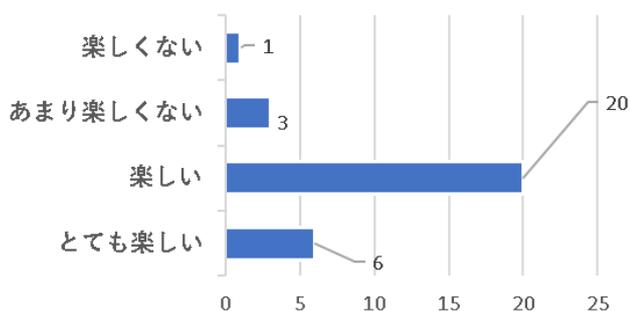
(2) 児童観

本学級の児童は、プレゼンテーションやパフォーマンステストで、テーマや質問に対する自分の意見を外国語で表現することができるようになってきた。しかし、授業中の発表や、文を書く学習になると自分の意見や率直な考えを表現することが苦手な児童が多いという実態がある。

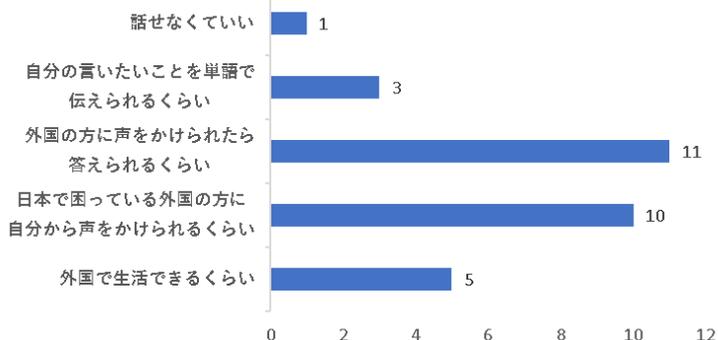
事前のアンケート結果を下記のグラフで表している。8割の児童は外国語の学習が楽しいと感じており、半数の児童が自主的に英語でコミュニケーションをとれるようになりたいと考えている。一方で、3割の児童が中学進学後、英語科を不安に感じる教科として認識していることが分かった。不安に感じる理由としては、「文や単語を書けない」や「単語を暗記するのが難しそう」という意見が多くあがった。

そこで、既習の学習内容を用いて自分が体験したことを詳しく伝えようとする活動を通して、事実だけを伝えるのではなく、事実に加えて自分の気持ちを表現する手段を知り、発信していく力を育てる必要があると考える。

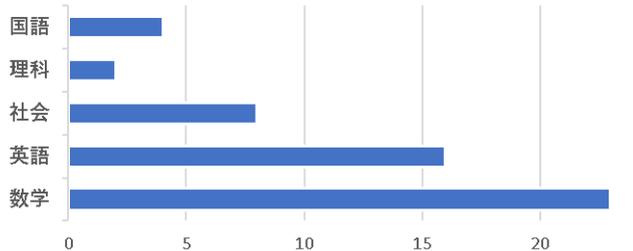
外国語の授業は楽しいか



どのくらい外国語を話せるようになりたいか



中学生になったときに不安な教科はありますか（自由記述）



〈英語科が不安な理由〉

- ・英文を書くのが不安だから
- ・外国語が苦手だから
- ・今も話せないから
- ・単語がたくさん出てきて難しそう
- ・単語を書いたり覚えたりしないといけないから

(3) 指導観

指導にあたっては、外国語が得意な児童も苦手な児童も楽しく活動に取り組める「帯活動」を行う。前提問題として、帯活動では、フラッシュカードやしりとりなどを用いた多くの単語に触れられる活動や、英語の絵本を読む活動を行い、聞く・見る・話すことで知っている単語量を増やすことを目的とする。また、手紙で使えそうな英単語に慣れ親しむようにしたい。この取組で、書くことや話すことへの抵抗や不安を軽減させ、書いたことを共有し、発音練習を取り入れることで、児童一人ひとりが伝えたい内容を簡単な語句や文構造を用いて、表現できるようにしたい。

また、小学校外国語科から中学校英語科へのギャップの軽減を考えている。学習指導要領では外国語科で英文を書けるようになることは明記されていない。しかし、児童が中学校の英語科で不安に感じているのは、「書くこと（英語や英文を書けないこと）」である。その不安を取り除くために、「正しい発音→音として聞き取る→文字として書き写す」ことを繰り返し行うようにして、文構造や母国語ではない言語の音声に触れさせ、外国語で表現することの楽しさや母国語との違いの面白さを感じさせたい。

本時では、自分が行ったことや感じたこと、場面の様子や時間を英作文する。内容を詳しくするために前置詞や接続詞を用いて工夫し、短い英文や語句をつなげて表現する活動を行う。英文を書く難易度を下げるため、わからない単語は日本語のまま補って書くように指導する。個別探究場面では、修学旅行の写真から考えられる4語以内の簡単な英文を個別に考える。協同探究場面では、そこからさらに文章内容を詳しく、自分の気持ちを加えるために、のり付けの役割をもつ単語（前置詞・接続詞）を使って、文構造と関連づけながら児童の考えや表現力を深めさせたい。

4 本時の目標（わかる学力）（第6時／全8時間）

- ・修学旅行の思い出や自分の気持ちを、前置詞や接続詞を用いて工夫して表現することができる。

5 評価

A：英語と日本語で思い出を作文し、内容をより詳しくするために接続詞や前置詞を用いた工夫や短い感想を付け加えて表現することができる。

〈例〉

- ・ I went to Kiyomizu temple in Kyoto.
- ・ I bought おみやげ for my family.
- ・ It was fun. (It を主語に用いた例)
- ・ I went to 京都タワー with my friends.
- ・ It was fun to play レーザーミッション.
- ・ I saw 大仏 on November 1st.

B：英語と日本語で思い出を作文し、自分が伝えたい内容を表現することができる。

〈例〉

- ・ I went to Kiyomizu temple.
- ・ I bought おみやげ.
- ・ I went to 京都タワー.
- ・ I saw 大仏.

学習活動

○教師の発問・予想される児童の反応例

1 前提問題

帯活動を行う。①英単語しりとり (Art→teacher→right)
②既習事項の確認 (動詞：現在形と過去形、意味)

2 **導入問題** **個別探究Ⅰ**

修学旅行の写真を見て、「I」を主語にして4語以内の英文を考えよう。

(わからない単語は日本語で補う。例:I went to 京都駅。)

3 **協同探究** 作った文章に工夫を加えよう。

《予想される児童の反応》

- ・ I 行った to Kyoto. ・ I ate お弁当.
- ・ I saw 鹿. ・ I bought おみやげ. ...

《関連づけ発問》

○出された英文を見て、共通点はありますか。

- ・ 動詞が過去形になっている。
- ・ 情報が少ない。

○英語と日本語の文章に違いはありますか。

・ 英語は、「行った・京都に」の順番。日本語は、「京都に行った」の順番。

《追究型発問》

○手紙にするにはどんな情報を付け加えたらいいですか。

- ・ 1 1月2日に (日付) on November 2nd
- ・ 歩いて ・ バスで (交通手段) by bus, on foot
- ・ 誰と行ったのか (その時の状況) with my friend
- ・ 家族におみやげを買った (目的) for my family
- ・ どこで鹿を見たのか (場所) in Nara
- ・ そのときの感想 ・ 思ったこと It was ~.

○のり付けの役割をもつ単語はほかに何がありましたか。

- ・ in ・ for ・ to ・ on ・ with ・ by ・ at ...

「I/It was + 気持ち + to + 動詞の原形」(～をして～だった)の文構造を確認する。

4 **展開問題 (個別探究Ⅱ)**

のり付けの役割をもつ単語を使って文章を考えよう。

自分が書いた英文を工夫する。

(前置詞で内容を詳しくする、接続詞で英文をつなぐ、感想を加える)

【導入問題のよさ】

- ・ 修学旅行をテーマにすることで、児童が思い出を文章で表現しやすい。
- ・ 「主語を“I”とすることで自分事として捉えやすく、「4語以内」とすることで、SVOの簡単な英文を作りやすくなる。
- ・ 英単語がわからない児童に対しては、日本語を交えた英文にすることも可とする。

【協同探究の進め方・工夫】

- ・ 修学旅行の写真(電子黒板)と例文(黒板)を掲示する。
- ・ 追究型発問で意見が出にくい場合は、日本語の手紙と4語以内の英文を比較させ、手紙にする改善点に気付かせる。
- ・ 児童の書きたい内容に合わせて詳しく書くことができるよう、前時の前置詞や接続詞の使い方を振り返らせる。

【本時の本質】

- ・ 自分が行ったことや感じたこと、場面の様子を英語で作文し、さらに、内容を詳しくするために、前置詞や接続詞を用いて工夫して英語で表現することができる。

【展開問題のよさ】

- ・ 自分の文章に前置詞や接続詞を付け加えたり、短い文章をつなげたりして、修学旅行の思い出を工夫して英語で表現することができる。